

うきたむ

第45号

2015.6.1

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585
FAX 0238 - 52 - 4665



▲手形をとる赤ちゃん和吉村知事

赤ちゃん手形今昔

うきたむ風土記の丘考古資料館

学芸員 齋藤久美子

当館で毎年ゴールデンウィークに開催している「赤ちゃんの手形を作るう」という催しを、今年も5月1日から5日までの5日間にわたり開催いたしました。好天にも恵まれ、県内外から多くの方にご参加いただきました。吉村美栄子山形県知事も来館され、手形を取る様子をご覧になったり、参加者の方々と交流されたりと、和やかな雰囲気の中でのイベントとなりました。参加してくださった皆様、また開催にあたりご協力くださった皆様に、心より御礼を申し上げます。

さて、この催しの由来となっているのが、縄文時代の遺跡から出土した「手形・足形付き土製品」です。乳児のものと思われる手形・足形のついた土製品が各地の縄文時代の遺跡から見つかり、本県でも、縄文時代中期の西海湖遺跡(村山市)から手形のついた土製品が発見されています。縄文時代の人々が、それらを作った理由は何なのか……諸説ありますが、当館では、子どもの健やかな成長を願うお守りとしての意味合いを持つという説にちなんで、この催しを開催しております。

日々の生活のなかで人々は折にふれ、祈りを捧げてきました。それは、土偶や神像、仏像などの、祈りや願いにまつわる資料が多く見られることから窺えます。「赤ちゃん手形」もそのひとつとして、祈りの形や対象は変わって人々の願いは変わらないことを、現在に伝えてくれるように思われます。

特別テーマ展

「災害と祈り」

平成27年6月6日(土)～8月5日(水)

特別テーマ展「災害と祈り」を(公財)山形県埋蔵文化財センターと共催で開催いたします。

災害の痕跡、そしてその困難に向き合った人々の祈りを紹介します。

火山噴火

藤治屋敷遺跡(山形市)

昨今、大きな災害が多発し、その土地の災害履歴が再確認されています。遺跡からも過去の災害の爪痕が発掘され、その痕跡は災害の脅威と共に、災害を乗り越えた先人の思いを物語ります。歴史に刻まれた様々な

馬見ヶ崎川扇状地外縁部の自然堤防上に広がる遺跡です。古墳時代から各時代にわたる遺構・遺物が見つかっています。九一五年の十和田噴火の火山灰と、朝鮮半島白頭山の火山灰が検出され、広範囲に及んだ火山噴火の被害が窺えます。

水害

川前2遺跡

(山形市・中山町)

須川沿いに営まれた古墳時代・奈良平安時代の集落です。

水害で埋没した集落が重層的に見つかり、治水



▲下長橋遺跡 地鎮具

祈願の儀式跡と思われる遺構も確認されています。度重なる洪水に見舞われながらも、居住を繰り返してきたことが明らかとなりました。

地震

下長橋遺跡(遊佐町)

庄内平野の北、烏海山麓の水田地帯に位置し、古代の官衙跡と考えられる規則的な建物跡が確認されています。地震で変形した遺構や傾いた柱等が検出され、また地震後の地鎮祭祀の跡と思われる埋納遺構が見つかっています。

火災

米沢城跡(米沢市)

中近世の建物跡が多数検出され、当時の暮らしぶりを窺える生活用品が多数出土しました。大火災により被災し柱が焼けただれた状態の建物跡や、火災で被熱した陶磁器などが一括廃棄された土坑が見つかりました。

たかはた美術館 ～考古資料館に日本画？～

開催日… 8月8日(土)～9月20日(日)

今夏、高畠町では町制施行一二〇周年・町村合併六〇周年を記念する事業、「たかはた美術館」展が開催されます。同展は、町内の資料館などの展示施設の一部を展示会場とし、作品を公開するとう、高畠町初めての企画です。考古資料館は第二会場として皆様をお迎えし、山形出身の画家菅原白龍の未公開作品四点を含む、日本画家や書家の作品二〇数点を展示する予定です。開館以来初めて、考古資料ではない資料が当館に展示されることとなります。日ごろご利用いただいている皆様には、普段とは違う雰囲気、初めて考古資料館に来られる皆様には、美術品と併せて考古の世界に触れていただく機会として、この展示会をお楽しみいただければと思っております。

展示予定作家…

菅原白龍、村田閑、初山滋、武井武雄、結城天童、会津八一ほか

【月曜日・祝日休館】



▲「きつつき」村田閑

第二三回企画展

「重要文化財 水木田遺跡展」

平成27年10月1日(木)～11月29日(日)

水木田遺跡は、山形県最上郡最上町に所在し、向町盆地を西流する小国川右岸の河岸段丘上に立地しています。

昭和五三年に発掘調査が行われ、縄文時代中期の竪穴住居跡八棟、土坑

二二基、集石遺構二基、配石遺構一基、それに平安時代の遺構が若干検出され、遺構と土器捨て場から約千箱の遺物が出土しました。

これら出土品のうち、

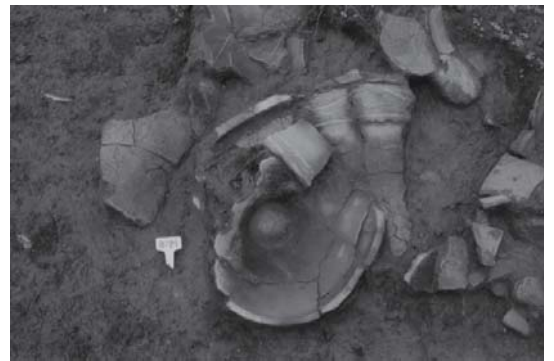


▲ 水木田遺跡出土土器

縄文時代中期の残存状況の良好な土器八八点、土製品四八点、石器・石製品一九四点の合計三三〇点が平成二三年六月二七日に重要文化財に指定されました。

土器は縄文時代中期の東北地方南部の大木7b式土器を中心とする比較的時間幅の短い一括土器が多数を占め、胴長の深鉢形で頸部から口縁部にかけて大きく広がる大形の優品が多く、遺存状態も極めて良好です。また関東地方の五領ヶ台式や、東北北部の円筒上層式土器の影響が窺える土器もあります。

土製品には山形県西ノ前遺跡出土品と類似した土偶が多数含まれ、石



▲ 水木田遺跡土器出土状況

器・石製品は、石鏃・石匙などの剥片石器、磨石・凹石などの礫石器が主体で、狩猟や堅果類の加工など、当時の生業を知るうえで重要で、その学術的価値は極めて高いとされています。

今回、その指定品が本館に移管されるのを期に、平成二七年度の企画展として皆様にご覧いただくことになりました。この機会に、ぜひ多くの方々にご覧いただきたいと思います。

催し物のご案内

今後の催し物です。興味のあるものがありましたら、ぜひ足をお運びください。

(詳細はお問い合わせください。)

- ◇ 特別テーマ展 6月6日(土)～8月5日(水)
- ◇ ガラス玉をつくろう! 6月13日(土)・12月12日(土)
- ◇ 古代風プレスレットをつくろう! 6月20日(土)・12月19日(土)
- ◇ 遺跡の旅 6月27日(土)・28日(日)
- ◇ 考古学入門講座1 7月5日・12・19・26日(日)
- ◇ たかはた美術館 8月8日(土)～9月20日(日)
- ◇ 勾玉・弓矢・石器をつくろう! 8月8日(土)・11月3日(祝)
- ◇ 第23回企画展 10月1日(水)～11月29日(日)
- ◇ 企画展記念講演会 11月15日(日)
- ◇ 秋の遺跡めぐり 10月4日(日)
- ◇ 第17期考古学セミナー 10月11日・25日・11月8日(日)
- ◇ 考古資料検討会 2月7日(日)

よろしくお願いたします



四月より、秦昭繁、福島茜に代わりまして、伊藤純子、片山眞尊が着任いたしました。新体制でがんばっていきたいと思いますので、今年度もよろしくお願致します。

観音岩洞窟遺跡

高島町二井宿●縄文時代〜弥生時代

今回ご紹介する

をつくりだしています。そ

を仏洞です。斜めに口をあけ

「観音岩洞窟遺跡」

こには評定岩、天狗岩、屏

た巨大な岩の下に十五畳ほ

は、高島町北部の二

風岩、夫婦岩、塩吹き岩と

どの広さがあります。また、

井宿地区大洞の山

名づけられた岩窟が散在し

観音岩Ⅰ洞より山手へ十五

中、標高三五〇メー

ており、それらの岩上や岩

メートルほど登った観音岩

トルの所にあります

窟には、幕末から明治初期

Ⅱ洞、通称千畳敷岩洞窟(評

す。観音岩洞窟遺跡のあ

りかけて地元の戸田半七氏

定岩)でも多数の遺物が確

る大洞山(おおほらやま)

認されました。

た弥生時代の人々が、山腹

は、全山第三紀中新世の凝

音や昭和になって製作され

の洞窟、岩陰などに居を構

灰岩により形成されていま

た十三仏などが安置されて

えていたのは、やはり狩猟、

す。それが長年の風触や河

おり、古くから地域の人々

採集など縄文時代の生活を

川の浸蝕によって奇岩・怪

によって霊場として、大切

化の特色であったのでしょ

岩を生み、緑の樹木に覆わ

にされている場所です。

うか。いずれにしても謎の

れて、至る所に洞窟や岩陰

が、壺、鉢、甕、台付

多し魅力的な遺跡であるこ

一九五七年山形大学教授柏

倉亮吉氏を団長に「山形新

とは間違いありません。

聞高島遺跡学術調査団」が

た、多くの貝類や骨角など

また、二井宿地区には永

結成され、早稲田大学講師

の動物遺存体も発見され、

禄元年七月に創建されたと

直良信夫氏の指導の下、行

貝製の鍬や骨片を尖らせた

伝えられる大社神社や義民

われた調査では、約三十の

鍬、紡錘車、磨製石斧など

高梨利右衛門酬恩碑など見

遺物出土地点が確認されま

も発見されました。その折

所がたくさんありますの

した。その中でも大規模で、

に出土した遺物の大半は当

で、新緑のころ二井宿の歴

出土遺物の多かった場所

館に展示、収蔵されており

史を肌で感じる旅に出ては

は、観音岩Ⅰ洞、通称十三

ます。

いかがでしょうか。



▲ 観音岩洞窟遺跡



▲ 十三仏

我が館の展覧品 (33)

長頸壺

弥生時代

● 南陽市 百刈田遺跡

百刈田遺跡は縄文時代から江戸時代まで長い間断続的に営まれた遺跡ですが、この壺は弥生時代中期のお墓から出土しました。

葬送にかかわる道具と考えられますが、頸部には小渦文、胴部には渦文や縄文が施されたとても美しい壺です。

昨年度の企画展「弥生時代の山形」図録の表紙を飾った一品で、今年度から、当館で常設展示されていますので、ぜひ足をお運びください。

